

備える。

準備。予備。整備。装備。守備。警備。
そなえる…用意する、そろえる、用心する
防備。常備。完備。不備。具備。兼備。
そなえ…したく、用意、警戒、防衛
備品。設備。備蓄。備具。備考。備忘。
そなわる…準備ができる、身に付く
●●ソナエ アレバ ウレナイシク

no. 8

かわさき
防災広報紙

昭和60年2月28日発行

編集・発行:

川崎市土木局防災対策室

〒210 川崎市川崎区宮本町1番地

TEL.(044)200-2111内線2841



《そのとき》に備えて。

たとえば、明日かあさつて大地震が起こると発表されたら…どうしますか。日ごろから十分準備をしてる人でさえ、あわててしまうかもしれない。まして、まだ準備がそれほどできてなかったら…。いつ《それ》が出されても、あわてずに防災のため必要な行動がとれるよう、ふだんから、《そのとき》について正しい知識を身につけ、十分な備えをしておくことが大切です。

《東海地震》と《警戒宣言》

現在、地震の発生に対して、観測体制が敷かれ、いつ地震が起こるか前もって知ることのできるのは、ただ一つ――静岡県の南、駿河湾付近で起こると予想されている《東海地震》だけです。この地震の規模は、関東大地震と同じくらいかそれ以上(マグニチュード8)と考えられており、特に大きな被害が予想されている静岡県、山梨県そして相模川付近より西側の神奈川県内の地域は、地震防災対策強化地域とされています。川崎市内でも、震度5ぐらいの揺れとなり、家具類が倒れる、ブロック塀が壊れる、ガラスが割れる…などの大きな被害を受けるおそれがあります。もし、観測データに異常があるときには、地震学者による判定会が開かれ、《東海地震》が起こるおそれがあると判定された場合、内閣総理大臣から《警戒宣言》が発令されます。《それ》は、今すぐにも起こる危険のある地震に対して、十分な準備をし、被害を最小限にするため、注意を呼びかけるためのものです。いたずらに騒いだり、混乱を招くような行動は避け、情報に注意し、デマを防ぎ、冷静な行動をとることが必要です。そのためにも、やはり日ごろからの備えが一番大切です。

《警戒宣言》発令!

あなた達の町では

市内の交通機関などは被害の軽減と混乱防止のため、次のようになります。

- 電車＝減速運転。(強化地域内では運行休止)
- バス＝できる限り運行。
- 道路＝強化地域方向への車両進入制限。
- 学校など＝市立の学校、幼稚園、保育園の生徒・児童・園児は、教職員の指導のもとに原則として帰宅させる。具体的には各学校等の指示による。
- 金融機関＝銀行・郵便局は、できる限り平常通り業務を行う。
- 電気、都市ガス、水道＝供給される。
- 電話＝「青」「黄」「緑」の公衆電話は通じるが、その他は制限され、通じにくくなる。
- ターミナル駅周辺＝帰宅を急ぐ人たちで、混雑が予想される。

わが家で

いまずくに、地震が起きても安全なように具体的な備えをしなければなりません。

- ◎市・区役所などからの情報に注意し、テレビ・ラジオのスイッチは入れたままに。
- ◎家族の役割分担や連絡方法を確かめる。
- ◎避難場所、避難路の確認。
- ◎クルマ、電話の使用は控える。
- ◎となり近所で助け合い、自主防災組織の活動に参加・協力する。



ニックとまではいかないが、騒然と浮き足だつという感じになった。そこで、沼津局と連絡をとり情報を確認したところ、「静岡県から、大きな余震が起これるので注意されたい、との余震の情報が流されたらしい。今、沼津の電話は相当混み合っている」とのことだった。

自分としては、「3時間後に大きな地震が起こる」などは現在の予知体制では無理なはず、と理解はしていても現に有感地震が何回となく起きている事実や、大きな余震が起これるとの情報から、不安感は相当高まったのは事実である。その時の気持は、4日前のあの恐怖を思い出し、本能的に安全な場所へ避難をと、一瞬考えた。

しかし、安全な場所へ逃げるといっても、どこが安全という保障はないのだ。3時間の間に、これからどこへどれだけ逃げられるのか。家族は、職場のみんなは……と、表面は努めて冷静さを装いながらも、いろいろな事を考え、不安な気持を抑えるのがせいっぱいであった。

体験談 その日

伊豆大島近海地震(5.1)
余震パニックを体験して
「大地震/そのときあなたは」
(電電公社編)から
(電電公社提供)

内田岩夫さん(電電公社職員)

昭和53年1月18日、その日は4日前に発生した伊豆大島近海地震(M7.0)の恐怖もまだ冷めやらぬ余震も時々発生していた。当時下田局自動運用課に勤務していた私は、その日の午後3時半頃、沼津の局から、「電話が非常に混み合っている。そちらは異常ないか」との照会を受けた。

早速、通話状況を調査した結果、それ程混んでいる様子はないので、その時は何の不安も感じなかったが、そのうち職員の間で「静岡の友人から、3時間後に大きな地震が来るらしいとの連絡があった」とか、「再度大地震が来るので、幼稚園や学校では子供を家へ帰らせた」などの情報が飛び始めて、職場はパ

時間経つにつれて、何か追い込まれていく気持を自分でもどうすることもできなかったが、その内に、「今、自分の置かれている状況の中で、最大限に自分の身の安全を確保するしかない」と思うようになった。

結局、3時間後はもとより、その後もこれと言った大きな地震は発生せず、あとになって、この時の騒ぎは静岡県からの「余震の情報」が様々な伝達の過程で「3時間後に大地震が起きる」と変化してしまったのだとわかった。

このことが教訓となって、国や県、さらに報道機関なども警戒宣言など地震の情報の表現や発表方法について、誤解を招かないよう、いろいろ検討されていると聞いている。私自身も、この時の体験を通じて、地震のあとの混乱した中では、①出来る限りテレビ・ラジオによりナマの正確な情報をつかむこと。②その正確な情報に基づき、早のみ込みをすることなく的確に判断すること。③そして、周囲の状況に惑わされず、冷静に行動すること。の3点について、その重要性を痛感した。

警戒宣言の発令を伝える信号



●サイレン……一定時間つづけて鳴らします。

●警鐘……一定時間つづけて打ちます。

《家の中》

●火はなるべく使用しない。使う場合には、そばに人がいるようにする。

●消火器の使い方の確認。

●バケツ、ふろおけ、ポリタンクなどに水を蓄えておく。

●家具などは倒れないように固定し、高い所にある物はおろしておく。

●ガラス戸のついた食器戸棚などは、中の物を出しておく。

●非常持ち出し品を確認。

●非常食(3日分ぐらい)の確認をしておく。

《家の周り》

●ブロック塀、門柱、かわらなどの点検・補強をしておく。

●プロパンガスのボンベは、倒れないように固定。使わない時はバルブを閉めておく。

★応急手当……レッスン⑧

救急処置

救急処置をするとき、救急車を呼ぶ間、運搬するとき、患者を安静にすることが必要です。体位、保温、環境の整備などを考えてあげてください。

①体位

- ① 水平に寝かせることが原則です。
- ② 顔色が青い場合は足の方を、赤い場合は上半身を少し高く(10〜30cm)すると楽になることを覚えておきましょう。ただし、頭、胸、腹などのケガのときや、その体位だと苦しい場合は、やはり水平に寝かせます。
- ③ 意識のある場合は、本人に聞いて最も楽な体位にしてあげます。
- ④ 意識のない場合は舌がのどに落ちこんだり、おう吐物が詰まったりして窒息しないように、顔を横に向けて、横向きに寝かせます。
- ⑤ ネクタイ、バンドなどはゆるめておきます。

②保温・加温

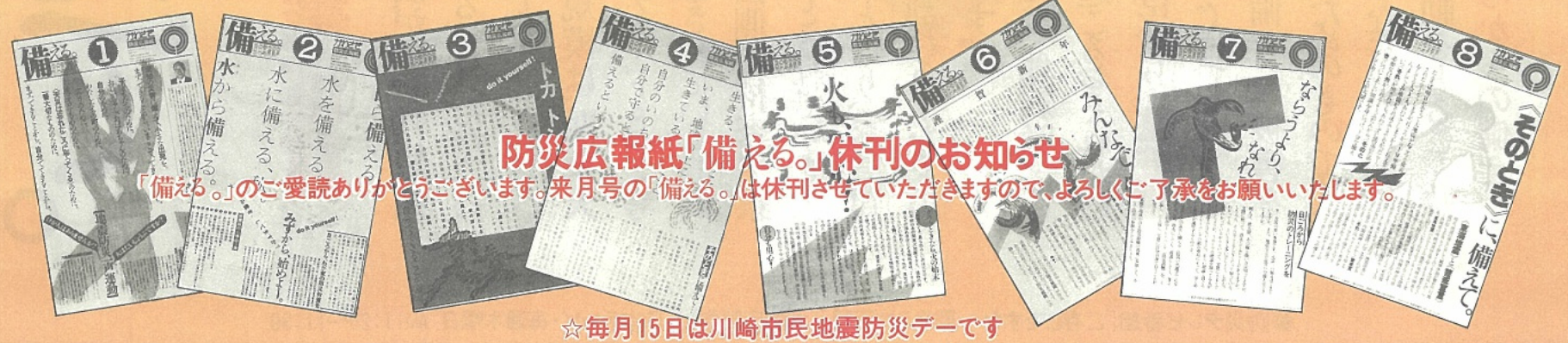
本人が持っている体温を保つように、全身を毛布で包みます。患者を直接床の上に寝かせる場合は、下からの冷えを防ぐのを忘れてはいけません。

寒いときなど、そのままでは体温が下がる患者には、湯タンポなどで熱を加え全身をあたためる必要があります。ただし低温でも熱傷を起こすことがあるので、温度に注意し、体に直接触れないように入れます。

③飲み物

原則として与えないようにします。特にアルコール類は禁物です。ことに意識のない者、頭部、胸部、腹部のケガのある者には飲み物を与えてはいけません。

※日(熱射病、熱傷、ひどい下痢)などのときの脱水症状などの場合には、むしろ水分をとらせる必要がありますが、少しずつ与えます。



防災広報紙「備える。」休刊のお知らせ

「備える。」のご愛読ありがとうございます。来月号の「備える。」は休刊させていただきますので、よろしくご了承をお願いいたします。

☆毎月15日は川崎市地震防災デーです